



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 「超」マネー投資のススメ

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

「投資」とは、お金をインプットして増えたお金をアウトプットすることです。お金は必要なものや欲しいものを交換することができ、満足感や幸福感を得ることができる。つまり、お金をインプットして幸福感をアウトプットする。アウトプットとしてのお金を得るためには、自分の知力・労力・時間等をインプットする。要するに、自分が働いて、お金を得て、幸福感がアウトプットされる。それでは、真ん中のお金を飛ばして、自分が動いて幸福感を得ても同じことになります。私はこれを「超」マネー投資と呼んでいます。

人間は何のために生きているのか？別にお金持ちになるために生きているわけではないし、権力を得る為に生きているわけでもない。人間は「しあわせ持ち」になるために、生まれて、生きて、死んでいくものです。毎年毎年、しあわせな年を過ごし良い思い出を貯めていけば、死ぬ時が一番幸せになれる。

人間にとって本当のしあわせとは何かということを考えてみると、世の中に笑顔を増やすことではないかと思うのです。周囲の人達が笑顔でいられることが、実は自分のしあわせにつながります。自分だけでなく、周りの人たちすべて、世界中の人々、さらに、今だけではなく、未来にわたって永遠に笑顔が満ち溢れたらすてきですね。つまり、人間の意識が「いま・自分」だけではなく、「未来・世界」に広がっていくことが大切なのです。そして、時間軸が長く、空間軸が広い人ほど品格が高い人だと言えます。

大切なことは「お金に心を込める」こと。つまり、お金を単に何かを買うツールとしてのみ扱うのではなく、そこに心を込めることが重要なのです。子どもにATMから何故お金が出てくるのか聞いてもわからない子が多い。これは、ATMの画面に出てくる数字は、保護者が一生懸命働いている会社が世の中に役立ち、仕事をした感謝のしるしとして月給が振り込まれているのだということを実感を持って知らない。保護者の働きというリアルな世界とATMの画面上の数字というバーチャルな世界が分断されていることはすごく大きな問題だと感じるのです。お金というものとリアルな世界をもう少し結びつけ、お金に心を込めることが大事だと思います。

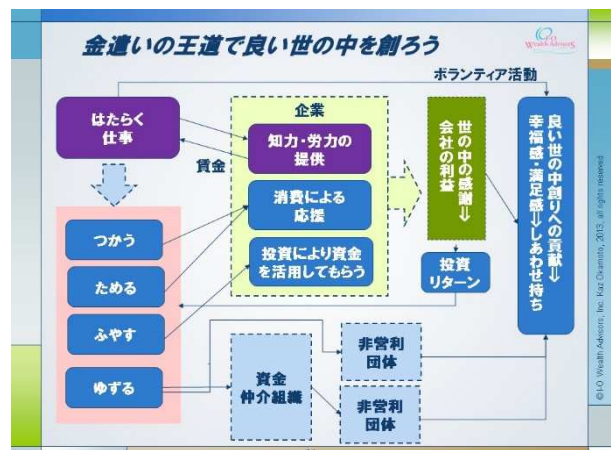


長期投資仲間通信「インベストライフ」

お金の価値を増やすとても良い方法があります。年収 1,000 万円の人が持つ 1 万円と、年収 100 万円の人が持つ 1 万円はお金の価値が全然違うのです。年収 1,000 万円の人が 100 万円の人に 1 万円を渡すことでお金の価値が増える。お金は価値が高い使い方をしてもらった方が喜ぶ。そして、お金は不思議なもので、お金を喜ばせてくれる人のところに集まります。「お金を絶対に手放さない！」と思っていると、お金の価値の拡大にはならないということです。

金遣いの王道を考えてみると、まずお金を稼ぐために働く。働くことで企業に知力・体力・時間を提供する。その対価として賃金をもらう。この賃金の使い方がハッピー・マネー[®]4 分法です。つまり、お金を「つかう」、「ためる」、「ふやす」、「ゆずる」の四つの用途に分類する。このうち企業という視点で考えると、「つかう」、「ためる」は、消費者、お客として企業を応援することです。「ふやす」は、資金を提供することで企業を資金的に応援する。債券や株式を買うことはもちろん、銀行への預金は企業への融資となります。また、銀行が買う国債によって調達した資金で公共事業が行われ、企業が潤っているかもしれないのです。

いずれにしても、世の中で回っているお金の究極的な持ち主は、個人以外にはない。個人は消費者として、資金の出し手として企業を応援しています。企業は、その活動を通して世の中のためになることをします。そして、社会から感謝され、その感謝のしるしが企業の利益になる。それが投資のリターンです。このリターンが生活者のもとに行き、再び「つかう」、「ためる」、「ふやす」、「ゆずる」に使われていく。「ゆずる」お金は、資金仲介団体を通して非営利団体に行くか、直接非営利団体に行き、このような組織を通して、良い世の中創りへ貢献していき、お金を譲った人は幸福感・満足感を得て幸せ持ちとなる。



講演内では、日本の寄付の現状や、寄付文化についての説明、また「日本フィランソロピー協会」の宮本さんから、実際に日本における寄付の実例が紹介され、寄付の文化が日本に根付いていることが実感できました。また、働くことを幸福感に変換する仕組みや、間接的に寄付する方法と直接寄付する方法、寄付と税金の関係について解説いただきました。

最後に、世の中を変えていくのは我々生活者（消費者・働き手・資本のオーナー）であり、一人一人の力は弱くても、組織を通じて一人一人の生き方を変えることで、世の中をよくしていくことができると結ばれました。そのためにも個人の意識が「いま・自分」から「未来・世界」へと広がることが大切だと感じました。